

共同運営部門：中央手術室

—関係部署—

中央手術室
麻酔科
外科系各科
腎臓内科
血液内科
臨床工学技士

—概要—

中央手術室は4階に手術室6室を有し、中央手術部運営委員会が管理、運営している。主な関係部署としては、中央手術室、麻酔科、手術を行う外科系各科、腎臓内科(シャント関連の手術)、血液内科(骨髄採取)、臨床工学技士があげられ、場合によっては臨床検査技師、薬剤師、助産師、事務、通訳等の職種や、小児科、循環器内科などの医師とも協働している。2018年度は、中央手術部運営委員会委員長の小林麻酔科部長が中央手術室長を務めた。手術室看護師は、南 昌子看護師長(兼中央滅菌室長)、桑原深雪副看護師長、濱上文信副看護師長、真鍋和子副看護師長を含め29名からなり、予定、緊急手術の全てに対応している。

手術室は6室のうち5室を予定手術用とし、原則として1室は緊急手術用に空けている。当センターには、泉州広域母子医療センター、心臓センター、脳神経センター、脊椎センター、人工関節センターなどが存在し、緊急度の極めて高い緊急手術が頻繁に発生するため、このような措置をとっている。

2018年度の予定手術枠は、以下の通りであった。

1	外科	呼吸器外科	外科	整形外科	心外
2	外科	口腔外科	外科	形成外科	脳外科(血液内科)
3	整形外科	脳外科	泌尿器科	外科	形成外科(第1・2週) 泌尿器科(第2・4・5週)
4	心臓血管外科	耳鼻咽喉科	外科(第2週)	心臓血管外科	外科(第1週) 泌尿器科(第2・5週)
5	耳鼻咽喉科	産科	緊急	形成外科	耳鼻咽喉科(第4週)
6	緊急	外科	緊急	緊急	緊急

—実績—

2018年度の月別総手術件数および全身麻酔下手術件数を図1に示す。年間総手術件数は3,403件、全身麻酔下手術は2,900件であった(アンギオ室内の手術は含まず)。2018年度の月別手術室利用率を図2に示す。年間の平均利用率は82.4%であった。

2016年度より、周術期管理センターが稼働し始めた。主治医、手術部、薬剤部、リハビリテーション科、口腔外科、

栄養管理科、事務が関わり、術前から情報収集、術前訓練・術前準備などを効率的に行うしくみである。

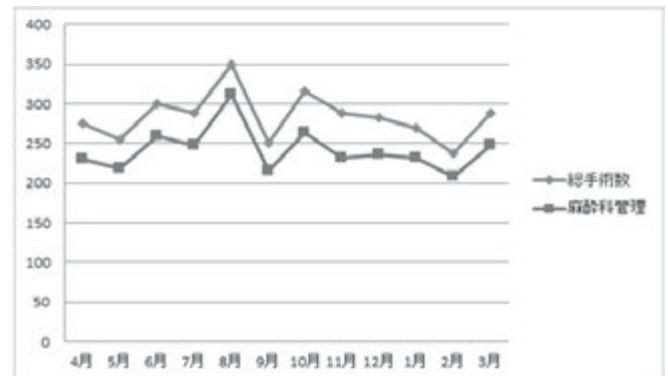


図1 2018年度手術実績

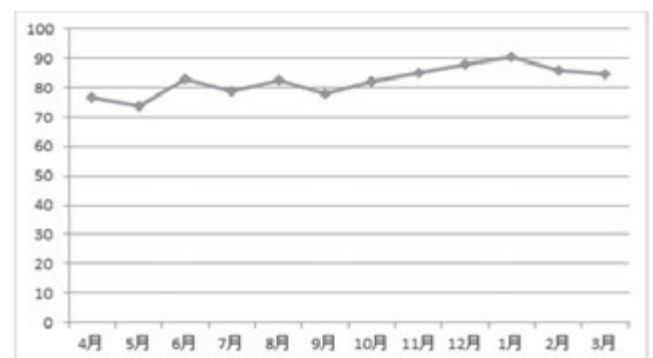


図2 2018年度手術室利用率

手術室は、手術室看護師・麻酔科医双方が、術前合併症・内服薬等の情報収集や、患者さんへの説明というかたちで、周術期管理センター業務の一部を担うことになった。

—今年度の成果と反省点—

年間手術数増加という社会・病院のニーズに応えるべく、2015年度から手術室の稼働時間を延ばし、看護師の2交替制、麻酔科医のフレックス制を導入したが、それを維持出来たことは成果と考えている。一方、平日日勤帯で手術室稼働率の低い日が現在も散在しており、そのような空きをいかに減らすかが今後の課題である。

周術期管理センターの立ち上げが成功したが、まだ対象患者は少ない。これから少しずつ対象患者数を増加させていく予定である。

—来年度への抱負—

社会・病院からもっとも求められているのは、手術数の増加である。手術室スタッフが疲弊せぬようバランスを取り、質の高い医療を提供していく。